

- ✓ 手すりカタログVOL.6 発刊!
- ✓ フリーRレール新商品ご紹介
- ✓ H.C.R.2024 ご来場御礼
- ✓ 作業療法士からみた住宅改修
- ✓ 建築から見るデザイン紀行

手すりカタログ 2024-2025 VOL.6

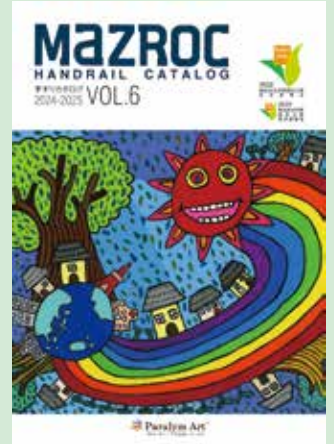
ご用命は
弊社担当営業まで

発刊!

手すり工事に必要な部材をまとめたコンパクトで持ち運びに便利な「手すりカタログ」。10月に発刊したバリアフリー建材カタログ Vol.22のダイジェスト版となります。ぜひ併せてご活用ください。今号も表紙にはパラリンアートを採用しています。



～障がい者がアートで夢を叶える世界を作る～
パラリンアートは障がい者アーティストとひとつのチームになり、社会保障費に依存せず、民間企業・個人の継続協力で障がい者支援を継続できる社会貢献型事業を行います。
マツ六はパラリンアートをカタログ表紙に採用して、障がい者アーティストの活動を応援しています。



BAUHAUS

Free R rail

NEW

フリーRレールはP.4～
掲載しています。

新アイテムが続々登場!

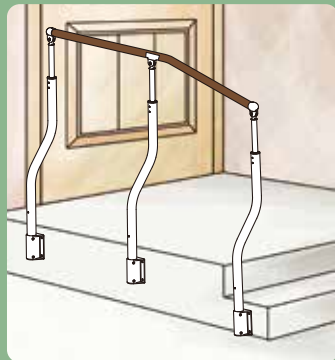
支柱やブラケットとデザインを
合わせたアルミ合金製ジョイント。

手すり棒と手すり棒を
T型につなぐ時に。



アルミ ジョイント

チーズ



手すりが欲しいところまで
寄せられるS支柱。
エンドタイプに加え
標準タイプが発売!

S支柱

ご来場ありがとうございました

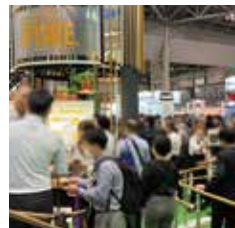
MCA 国際福祉機器展 H.C.R.2024

本展示会では、バリアフリー建材と福祉用具を中心に、『たよレールUPDATE』など新商品をはじめとしたアイテムを、多くのお客様に実際に見て・触れていただくことができました。

会期中は混雑もあり、ご説明が行き届かない点もあったかと存じます。
H.C.R.2024の当社ブースを360°ビューでご覧いただける

「マツ六ブースバーチャルツアー」を今回もご用意いたしました。

商品の確認などに、またご来場いただけなかった方も是非ご利用ください!



マツ六ブース
バーチャルツアーは
こちらから



転倒の原因に応じた対処で
転倒を防ぐ

高齢者が転倒すると、心身機能の低下や抑うつなどの心理面への影響、長期臥床や寝たきりの要因になることが知られています。転倒の実態を知り、対処することで、健康寿命を延ばすことが可能になると思います。それでは、高齢者はどういった場所でのどのような転倒をしているのでしょうか。

四日市市の救急出動記録から地域高齢者の転倒の実態を明らかにした調査があります。その調査では、転倒の場所は自宅が64.9%、次いで道路が15.7%としています。更に、居室での転倒では女性が69.1%と多く、道路での転倒では男性が54.0%と多かったとしています。居室での転倒の原因は「滑り」が多く、転倒が後方及び側方に起きやすい為、大腿部や殿部に衝撃を受けやすいとしていいます(図1)。道路での転倒の原因は「躓き」が多く、前方転倒が多く頭部受傷が多いとしています(図2)。

また、要介護高齢者だけを対象とした調査では、転倒場所は寝室及び廊下が多く、独歩時に転倒し、後方および側方への転倒が多いとしています。転倒・転落時の傷害の関連要因として、男性、独歩、転倒場所が廊下であるとしています。

図1) 室内は滑りによる
後方転倒が女性に多い図2) 屋外は躓きによる
前方転倒が男性に多い

高齢期の地域生活における転倒は、女性は「滑り」により居室での後方・側方の転倒で大腿部・殿部の傷害、男性は「躓き」により道路での前方への転倒で頭部の傷害が多い。要介護者になると、男性は独歩で廊下での転倒で傷害を受けています。

このことから生活範囲に応じて転倒予防策を検討していく必要があると思います。転倒の原因毎の対処方法を以下の通りに挙げています。

屋外での転倒においては、つまさをあげる靴下の利用、下肢筋力の向上、自身の身体を思った様に動かすためのトレーニングなどが挙げられます。

「滑り」の転倒への対処として、固定されていない敷物は取り除くか滑り止めによる固定、滑りにくい転倒予防スリッパの使用が挙げられます。

「躓き」の転倒への対処として、段差に蛍光テープを貼付けることによる段差の明確化、照明や構造上の問題により十分な明るさがない暗所に対しては、工事を伴わない簡易照明機器の設置、床面に紙や座布団が散乱し整理整頓されていない場所は整理整頓する、などが挙げられます。

参考文献

- 1) 平野裕滋, 藤田秀, 平野啓祐, 阿部潤, 杉浦 加奈子, 市原薫, 他: 四日市市における地域高齢者の転倒実態～2008年から2015年までの8年間の救急出動記録より～, 日本転倒予防学会誌, 4 (1), 2017
- 2) 横山 大輝, 満山 兼一郎, 吉田 美森, 藤崎 和希, 横山 雅人, 他: 要介護者における転倒・転落時傷害に関わる要因の検討, 理学療法科学, 39(2), 2024
- 3) 上田哲也: 地域のなかで, 「リハビリ」×「建築」の融合を図る, 日本転倒予防学会誌, 9 (1), 2022

建築から見る

デザイン紀行 4

～過去から現在そして未来へ～

Salone del mobile 2024 -part3-
(イタリア・ミラノ)

今回のテーマは、杖。

ミラノサローネの魅力は、本会場展示だけではなく、ミラノ市全体で展示されている「フォーリサローネ」とよばれる市街地の展示です。

特に私が興味を引かれた展示は、トリエンナーレミラノで行われていた日本人デザイナーの武内経至氏と家具メーカーkarimokuによる『walking sticks and canes』です。



杖というのは、元を辿れば、森に落ちている木の枝を拾い森を歩くのに使い始めたのが始まりだったのかもしれませんが、その後、杖の在り方は変化していき、権力や権威、宗教的地位の象徴となり、後にはファッションや富の象徴となりました。

現在では高齢者が持つものとされるようになりましたが、

杖というのは、自分の個性や物語を表現する道具としても使え、控え目でありながら無限の探求の可能性を秘めています。



『walking sticks and canes』では、武内経至氏が尊敬するデザイナーによる18本の杖が展示されており、表現力豊かなツールであるという一般的認識が共有されていました。私はこの展示を見て、デザインの持つ力、影響力を感じることが出来ました。

杖という事に対する間違った認識をより平滑に解釈し、プロダクト本来が持つ魅力を最大限に引き出し、可能性を見出す。これこそがデザイナーの使命であると思います。

未来を変える一歩を
いっしょに。

たよれールシリーズ

MOTOE
モトエプロジェクト地球に優しい福祉用具の
サーキュラーエコノミー。福祉住環境
コーディネーター 道

の答え: ① 住宅入居等支援事業

マツ六公式SNS
更新中!Instagram ▶ @mazrocofficial
X ▶ @mazrocofficial1Facebook ▶ facebook.com/mazroc/
YouTube ▶ @mazrocsho